

世界気象デー（2023年3月23日）
～2023年のテーマは「世代を超えた気象、気候、水の未来」～
“The future of weather, climate and water across generations”



世界気象デー2023 のバナー
(出典：WMO 特設ページ)

世界気象機関（WMO）は、1950年（昭和25年）3月23日に世界気象機関条約が発効したことを記念して3月23日を「世界気象デー」としており、毎年、気象業務への国際的な理解促進のためのキャンペーンを行っています。

今年はWMOの前身である国際気象機関（IMO）が1873年（明治6年）に創立されてから150周年であり、世界気象デーのテーマは、これまでの気象業務の歴史と将来の発展を見据えて「世代を超えた気象、気候、水の未来」となっています。

気象をはじめとした自然現象に国境はなく、世界の気象業務は、各国の国家気象機関が国際気象機関（IMO）やWMOを通じて互いに協力することで発展してきました。今日では当たり前のように世界中で観測データが交換され、天気予報の発表が行われていますが、これは長年にわたる国際協力の成果と言えます。

近年、科学技術の発展により観測や予報の技術は飛躍的に進歩しています。私たちには、気象情報を社会の様々な場面で活用し、気候変動への対応など将来世代のために行動することが期待されています。

WMOでは3月16日（木）にスイス・ジュネーブの本部で記念セレモニーを開催します。（詳細はWMO特設ページ参照）

我が国は、このWMOの枠組みに1953年（昭和28年）に加盟しました。そして現在、気象庁は、気象衛星ひまわりの運用や、観測、通信、熱帯低気圧、気候等の様々な分野のWMOの地区センターを運用し、各国の気象業務を支援するための情報提供、技術協力等を行っています。アジア地区の主要な国家気象機関のひとつとして、引き続き国際貢献を行っています。

- ・WMO特設ページ（英語）：

<https://public.wmo.int/en/resources/world-meteorological-day/future-of-weather-climate-water-across-generations-2023>

- ・気象庁特設ページ（日本語）：

https://www.jma.go.jp/jma/kokusai/kokusai_wmd.html

(2023年3月9日 気象庁)

【世界気象機関（WMO）特設ページ（英語）のメッセージの仮訳】

世代を超えた気象・気候・水の未来

私たちは、互いにつながった地球上に住んでいます。私たちは、ひとつの大気とひとつの海を持つ、ひとつの地球を共有しています。

気象、気候、水循環には国境や政治的な境界線は無く、国際的な協力が不可欠です。この理念は、1873年以來、世界の気象のコミュニティの活動を後押ししてきました。そして、現在と未来の世代のために、科学を社会へのサービスに活用する際の道しるべとなるものです。

2023年の世界気象デーは、世界気象機関（WMO）の150周年にあたる機会に開催されます。この記念の年は、19世紀末の電信や航海向けの予報から、スーパーコンピューターや宇宙技術に至るまで、過去の成果、現在の進歩、そして将来の可能性に光を当てるものです。

この間、各国の国家気象水文機関は休みなくデータの収集と標準化に取り組んできました。これは、現在では当たり前になっている天気予報の基礎となっています。WMOのデータ交換の歴史は、科学的なビジョン、技術的な発展、そして何よりも社会に貢献するための比類ない協力体制という驚くべき物語となっています。

また、この記念すべき年は、変わりゆく気候について改めて思い起こさせるものでもあります。世界気象機関の前身である国際気象機関は、産業や人間活動による汚染が始まった時代である1873年に設立されました。

熱を閉じ込める温室効果ガスにより、世界の平均気温は150年前と比較して、現在は1°C以上高くなっています。気象はより極端になり、海はより温かく、より酸性に近づき、海面は上昇し、氷河などの氷は溶けています。変化のスピードは加速しています。私たちは、温室効果ガスの排出量を削減し、将来の世代がこの地球で生存し、繁栄できるようにするために、今すぐ緊急の行動をとる必要があります。

喜ばしいことに、科学技術の急速な進歩により、天気予報や、命を救う早期警報の精度が大幅に向上しています。ビッグデータは、かつてないほど幅広いコミュニティで自由に交換され、機械学習や人工知能を含む新しいツールも登場しています。

意思決定を支援するための地球の気候の監視、シミュレーション、予測も大きな進展を遂げています。

将来の私たちの気象、気候、水循環は、過去のいずれのものとも異なるものになるでしょう。気象、気候そして水文サービスは、私たちがそれらに関連する課題に取り組み、機会をつかむための助けになるでしょう。